

共生システム理工学類・食農学類生の英語以外の外国語

(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語)の履修について

以下は、1年次で英語以外の外国語を履修するための説明です。詳しい説明は『学修案内』の「英語、英語以外の外国語の履修について」にあります。4年間で卒業するために知らなくてはならない重要な内容ですので、必ず読んでおいてください。

(1) 英語以外の外国語の履修について

- ①共生システム理工学類・食農学類の学生は、**基盤教育教養領域の外国語科目**として、1年次と2年次で英語と英語以外の外国語(以下、非英)を、英語4単位、非英4単位、あるいは英語2単位+非英2単位のいずれかの形で、4単位修得しなければなりません。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期又は後期に15回受け、期末試験等に合格することによって修得できます。
- ②**基盤教育教養領域の外国語科目**の4単位を、英語だけ4単位で修得するのではなく、非英も受けて英語2単位+非英2単位、又は非英4単位で修得したい人は、1年次で非英の基礎Ⅰ・基礎Ⅱを修得する必要があります。そこで皆さんには、まず**基盤教育教養領域の外国語科目4単位を英語だけ履修してとるか、あるいは非英も履修してとるか、つまり1年次で基礎Ⅰ・基礎Ⅱを履修するかどうかを決めてもらう必要があります**。次の(2)を読んで、1年次で基礎Ⅰ・基礎Ⅱを履修する人は、(4)で説明する受講希望アンケートを記入・提出してください。
- ③留学生は日本語のほか非英を履修することもできますが、母語、母国語系統の言語は履修できません。

(2) 基礎Ⅰ(1単位)・基礎Ⅱ(1単位)の履修について

- ①1年次で基礎Ⅰ・基礎Ⅱ(Ⅰは前期、Ⅱは後期)を履修する場合は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語の5言語から1言語選択し、基礎Ⅰと基礎Ⅱは同じ言語で、修得しなければなりません。希望する言語を選択する際は、各言語の紹介(下記(5))を参照してください。
- ②基礎Ⅱの履修には、同じ言語の基礎Ⅰの修得が必要です。また基礎Ⅰ・基礎Ⅱは同一クラスで受講します。
- ③基礎Ⅰ・基礎Ⅱをどの言語のどのクラスで履修するかは、受講希望アンケート(下記(4))の結果をふまえて担当教員が指定します。各言語のクラス分けは、4月28日(火)夕方にライブキャンパスに発表します。自分が履修する言語とクラス(クラスはA、B、C・・・で示します)をライブキャンパスで確認した上で、『学修案内』で自分のクラスの曜日・時限(理工は火3又は木4、食農は火3)を確認して、第1回の授業(理工は5月7日(木)

4限、又は12日(火)3限、食農は12日(火)3限)を受けてください。

- ④希望者が多すぎて、1クラス30名を超える言語は受講調整を行い、受講希望アンケートに記入する第2希望、第3希望の言語に移ってもらう場合があります。ライブキャンパスに発表された第1希望言語のクラス分けに自分の名前がない時は、第2希望、第3希望の言語のクラス分けを見て、自分が履修する言語とクラスを確認ください。
- ⑤教科書は、必ずライブキャンパスで自分がどの言語を受けることになったかを確認してから、生協で購入してください。一度購入した教科書は返却できません。

(3) 基礎(特設)Ⅰ(1単位)・基礎(特設)Ⅱ(1単位)の履修

- ①基礎Ⅰ・基礎Ⅱの履修者のうち希望者は、同時に同じ言語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱを履修することができます。この科目は、基礎Ⅰ・基礎Ⅱで学ぶ言語の勉強にもっと力を入れたい人のための科目です。またこの科目を受ける人は、1年次に同じ言語の授業を、基礎Ⅰ・基礎Ⅱとあわせて週2回受けることになります。なお基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱは、基礎Ⅰ・基礎Ⅱと同様にセットで履修しなければなりません。
- ②フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱの授業は、金2です(基礎Ⅰ基礎Ⅱとは違います)。金2に「情報リテラシー」や「抽選登録科目」など他の授業をとるとフランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の基礎特設は取れません(ドイツ語は火2、木2、金2、中国語は火2、火3、木2です)。
- ③受講希望アンケートに記入する時に、基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱの受講希望も記入してもらいます。
- ④基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱのクラスは、基礎Ⅰ・基礎Ⅱのクラス分けと同時にライブキャンパスで指定します。受講を希望した人は、ライブキャンパスで自分のクラスを確認して、第1回の授業を受けてください。フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語は8日(金)2限です。ドイツ語、中国語は複数クラスがあるので『学修案内』で自分が指定されたクラスの曜日・時限を確認して受けてください。

(4) 受講希望アンケート

- ①ライブキャンパスのトップメニューからキャンパスライフを選択し、そこにアップされている受講希望アンケートに、下記の②③のように回答してください。
- ②基礎Ⅰ・基礎Ⅱで受講したい言語について、必ず第1希望、第2希望、第3希望を記入してください。第3希望まで記入していない場合、希望を認めないことがあります。また第1希望の言語を特別に強く望む場合は、その理由を備考欄に記してください。
- ③基礎(特設)Ⅰ・基礎(特設)Ⅱの受講についての希望の有・無を、第1希望、第2希望、第3希望の言語それぞれについて記入してください。

(5) 各言語の紹介

ドイツ語

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイスなどで約1億人が使う言語です。EUで第一言語話者が一番多いのはドイツ語で、ヨーロッパの政治・経済に対してとても大きな役割を持っています。ドイツ語は英語と元が同じで、きょうだいのような言葉です。英語を習ってきた学生にはとても親しみやすい言語です。「good」は「gut」、「God」は「Gott」、「Book」は「Buch」です。なんとなくわかりますよね。また、ドイツ語は日本の文化にも大きな影響を与えました。今話題の「ワクチン」「ウィルス」「ツベルクリン」などはドイツ語から日本語に入ってきました。スポーツでは「リュックサック」「ゲレンデ」「ボーゲン」なんかもドイツ語です。「アルバイト」「ゼミナール」もそうですね。ドイツ語を学ぶことは、ヨーロッパについて学ぶだけでなく、日本を学ぶことにも繋がります。

注意事項① 特設を希望する場合、A（火曜2限）、B（木曜2限）、C（金曜2限）のうち、出られない時間を必ず書いてください。

注意事項② 基礎A（火2）、C（木2）、E（火3）は特設受講者のみを対象とします。その他のクラスは基礎のみの受講者を対象とします。都合の悪い方はお知らせください。

フランス語

フランス語は、フランス共和国を中心に、スイス、ベルギー、カナダやアフリカの複数の国々、タヒチやニューカレドニアなどの島々、またベトナムでも、公用語として話されています。日本では文化に関わる分野に多く取り入れられています。食べ物では、パン、グラタン、ショコラ、カフェオレ、クロワッサン、クレープなど、その他、シェフ、コンクール、ジャンル、ブティック、アンケート、クーデター、デビュー、グランプリ、デッサンなどはフランス語です。「参加することに意義がある」と言った近代オリンピックの祖クーベルタンがフランス人であったことから、オリンピックでは必ずフランス語でのアナウンスがあります。こんなふうにフランス語は日本にいても耳にすることが多く、学習していると生活の中のフランス語を見つける楽しさがあります。英語の基礎のひとつなので、同綴りの単語もあり、英語の知識を援用できます。特設では実践的な会話を学びます。

中国語

日本語話者から見たとき、中国語は同じ漢字文化を共有しているため、文字（漢字）レベルでは言うまでもなく、共通する漢字語彙も多く、非常に馴染みやすい言語だと言えます。また、日本と中国は2000年の文化交流の歴史があり、日本文化の中に中国由来のものが非常に多いです。中国語を勉強し、中国文化を理解することは、日本語・日本文化に対する再認識にもつながります。

しかし、他方で留意してほしいこともあります。中国語は決して努力せずに簡単に習得できる言語ではありません。現代中国語には「广, 飞, 乐, 丰, 电, …」のように簡略された漢字が数多くあります。語彙も「爱人, 丈夫, 手纸, 新闻, 告诉, …」のように日本語とは異なる意味で使用されている言葉が少なくありません。そして、日本語話者にとって何と言っても、発音と声調が大きな難題です。上記のことを理解した上、なおかつ中国語・中国文化に強く関心を持っている方の履修をお待ちしています。

ロシア語

ロシア語は、ロシアとその周辺の国々の公用語で、話す人の数が世界有数の言語です。語順が非常に自由なので、日本語と同じように単語を並べても十分通じます。英語と同じヨーロッパ系言語の仲間ですが、このグループの多くの言語が持つ冠詞がなく、the か a か、どちら也使わないかで悩むようなことはありません。ただ、やさしい点ばかりではありません。

ロシア語は基本的には英語と同じ形、発音の文字を使います。**MAMA** は「ママ」で「お母さん」。**KOT** は「コット」で「キャット」と同じ「猫」。これらは簡単ですが、そうでないものもあります。**ИКРА** は「イクラ」と読んで意味も寿司の「イクラ」ですが、Иを「イ」と読む、Рを「パ〜ポ」ではなく「ラ〜ロ」と読む、などは新たに覚えなければなりません。

授業では、まずは皆さんが初めて見る文字を含むアルファベットをロシア語っぽく読む練習からはじめ、一年間で、自分と身の回りのこと、名は何で何歳でどこ出身で…などが言えるようにしていきます。マトリョーシカなど、ロシア文化の紹介も行います。

韓国朝鮮語

韓国朝鮮語は大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国でおもに話されている言語です。日本語と語順が同じだけでなく単語や文法構造も非常に似ていて、私たち日本語話者にもっとも学びやすい言語と言えます。その一方で、母音と子音の数が日本語より多く発音が複雑です。

授業はハングルの文字と発音から始め、読み、書き、会話の基礎をバランスよく身に付けられるよう指導します。成績は出席状況、授業態度、課題提出状況、小テスト、学期末試験を総合的に評価します。学びやすい分、進度が早い講座です。「楽そうだな」という気持ちでは受講しないでください。それでも「ぜひとも韓国朝鮮語を受講したい！」という学生は受講希望カードに韓国語を希望する理由を記入して提出してください。もう少し詳しく知りたい人は QR コードにアクセスしてください。

